

# 久米島ドリー部 チャレンジ

～久米島町移住・定住推進アクションプラン～

みんなが安心して、ずっと暮らせる島。  
たくさんの方が、島に戻りたい、移住したいと思うような魅力のある島。  
こうした「夢（ドリーム）」を実現するために、  
住民と行政が協力して「部活動」のように楽しく、絆を深めながら、  
様々な分野でまちづくりに取り組んでいく。  
それが「久米島 ドリー部チャレンジ」です。

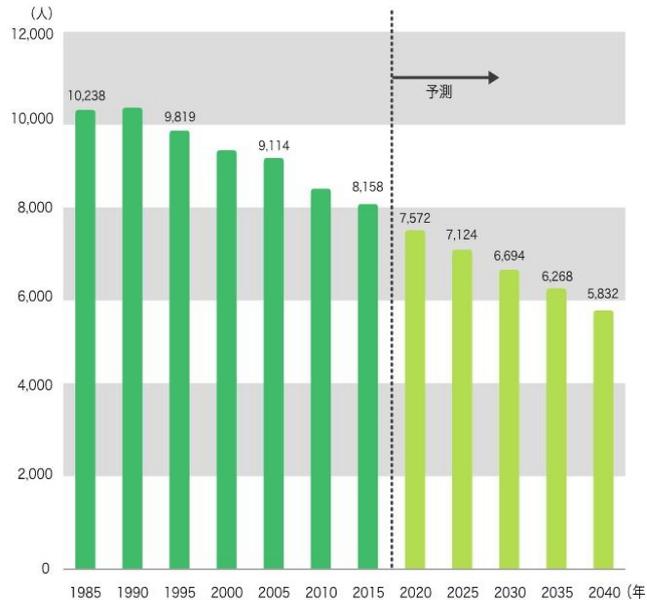
平成 29 年 2 月

## 1. 移住・定住推進アクションプラン策定の背景と目的

平成 27 年に策定された「第 2 次久米島町総合計画」では、今の活気を失わないため、“人口減少に歯止めをかける”ことを目標として掲げた。

そこで明らかになった課題として、人口減少があげられる。久米島町では、毎年約 100 人、人口が減少している。その原因は、死亡による自然減よりも、転出による社会減による割合が大きくなっている。

久米島の人口の推移と予測



しかし、単純に「外から移住者を連れてくる」ことに注力しても、課題の根本的な解決とはならない。現在住んでいる住民の暮らしをより充実させることで、移住・定住を推進することを目標としている。総合計画の策定の際に行った住民へのアンケートでは、「島を離れたくないが、(様々な事情で)を離れなければならない」との回答が多数あった。これらの「島を離れなければならない要因・理由」を洗い出し、解決に取り組むことが、久米島町の目指す人口減少対策である。

平成 28 年には、“島ぐらしコンシェルジュ”を設置し、町に点在している移住・Uターンに必要な情報の収集・発信、ワンストップでの相談対応を開始した。

しかし、行政のみでは移住・定住の推進を良い形で実行していくことは困難である。移住・Uターン者の受け入れにかかる様々な課題解決や、島での暮らしをより良くすることについては、住民の理解を得て、一緒に取り組んでいく必要がある。なぜなら、まちを形成しているのは、そこに実際に暮らす住民だからである。住民ひとりひとりと、“皆が安心して暮らせるまち、久米島”の姿について、イメージを共有することが大切である。

そこで、住民と行政が協力して、移住・定住の推進に取り組むために、アクションプランを策定することとなった。これは今後、総合計画の目標である「夢つむぐ島」の実現に向けて、官民協働で取り組んでいく、力強い第一歩となるものである。

## 2. プランの概要

移住・定住推進の方法として、以下の4方向からアプローチをしていく。

### (1) 久米島をPR

久米島は石垣島、宮古島等、県内の他の離島に比べ認知度が低い。まずは久米島を知ってもらうことを目指す。しかし、従来どおりの海やリゾートのイメージだけでなく、人や暮らしにフォーカスした発信をし、移住地としての魅力をPRしていく。

### (2) 移住希望者への情報発信・移住者受入れ体制整備

久米島への移住を検討する人にとって、島外から事前に移住に必要な情報を得ることが困難であった。平成28年度より、“島ぐらしコンシェルジュ（島コン）”が仕事・住宅・暮らし情報を収集し、ホームページでの発信を開始した。今後はさらに多角的で、様々な立場からのリアルな情報を発信することで、移住希望者の移住をサポートする。

また、移住者と住民の間で、誤解や擦れ違いによる壁が生じている。交流の場や、お互いを理解するためのツールを作成する等して、移住者が地域に溶け込めるようフォローする。

### (3) 良住推進

暮らしの満足度を高め、「誰もが安心して暮らせる島」を実現することで、転出を抑止する。子育てや福祉、教育等、現在ある課題の解決に取り組む。

“内を充たす”ことで、“外から誘う（移住・Uターンの促進）”魅力のある島を目指す。

### (4) 島に必要な人財の確保

現在の島が抱える課題を解決する手助けをしてくれる人、島をより良くするために必要なスキル・資格を持っている人を、移住・Uターンを促すことで誘致する。もしくは島内在住者の資格取得推進により確保する。

特に「子育てしやすい島」を目指し、子育て・教育関連の人財誘致に重点を置く。

※ “人こそ宝である” という意味を込めて、人材→人財と表記しています。

### 3. アクションプラン詳細

#### ◎住民プロジェクトプラン

## ①久米島ブロガーズプラン

【施策の方向性】・久米島を PR ・移住希望者への情報発信

【現状と課題】

島のリアルな情報がない。日本の中での「久米島」の認知度が非常に低い。

【実現したいこと】

インターネットで検索時、「沖縄 移住」といえば「久米島」と出てくるようにしたい。

【活動内容】

- ・ブロガーチームを作る
- ・毎月のお題を設定して皆で書く
- ・LINE グループで情報交換や質問ができる
- ・チームブログ or メディアをつくる

【スケジュール（予定）】

平成 29 年 4 月-5 月 チーム発足、メンバー募集

6 月- 勉強会(著作権講座、内容や写真、著作権、SEO (※) について等) 各自ブログを書きつつ交流

9 月- ブログ or メディアの立ち上げ作業

(※) SEO とは「検索エンジン最適化 (Search Engine Optimization)」の頭文字を取った略称で、Google や Yahoo! などの検索エンジンでキーワード検索した場合に上位に表示されるようにすることを意味します。

## ②結（むすび）の会プラン

【施策の方向性】・良住推進

【現状と課題】

人口減少が進んでいる中、島内に若者・独身者で結婚を希望する人がいても、互いに出会う場がない。

【実現したいこと】

- ・島内にいる結婚希望者に交流の機会を提供する
- ・結婚し久米島で家庭を持つ若者を増やし、人口減少を食い止める一助とする

【活動内容】

- ・結婚希望者のリストを作る（ただし、“生活態度が良好な者”など条件をつける）
- ・BBQ 会やエイサー・マラソンなどイベントにタイミングを合わせた交流会を開催（年 1 回～5・6 回）
- ・交流会前のアプローチ方法のレクチャーや、島嫁候補へのフォローを「定住サポーター」チームと連携して行う。

### 【スケジュール(予定)】

平成 29 年 4 月～ 島内の結婚希望者リストをつくる

募集チラシを作成し職場などに掲示して広報

レクチャーの内容を検討する

5 月 第 1 回 BBQ 会開催

反省会

6 月～ エイサーやマラソン等、イベントごとに交流会を開催していく。

## ③ “ドリ一部” プラン

【施策の方向性】・良住推進

【現状と課題】

平成 27 年度に第 2 次久米島町総合計画が策定されたが、行政と住民の取組みが互いに見えづらい現状がある。互いの取組状況を把握し、その情報を共有することで、島全体が協力して力強く計画を遂行していくことが課題であるが、その土壌がない。

【実現したいこと】

- ・第 2 次久米島町総合計画と照らし合わせながら、行政が取り組んでいること、住民が取り組んでいることを発表し合う大会を、年に一度もしくは二度開催し、全体像を把握しながら島全体で計画に取り組んでいく。
- ・島の状況把握を行政のみに頼らず、自分達で積極的に取り組む活動を開始する。教育、仕事、医療など、現場の声を出し合い共有する場を作る。

【活動内容】

- ・上記目的のための、実行グループづくり
- ・住民がやっていること(サークル、団体、個人の活動)のリサーチ
- ・行政の事業、施策の実施状況確認等情報収集、共有
- ・総合計画確認イベント(発表大会)の開催

【スケジュール(予定)】

平成29年3月末『ドリ一部』アクションプラン3か年計画作成

## ④定住サポーターズ プラン

【施策の方向性】・移住希望者への情報発信、移住者受入れ体制整備 ・良住推進

【現状と課題】

- ・移住前後での想像と現実のギャップ
- ・移住したがうまくなじめない人がいる
- ・移住者―地元間での情報の共有が不足している→これらをサポートする組織がない

### 【実現したいこと】

- ・新島人(みーしまんちゅ)の会を設立し、スムーズな定住をサポートする体制をつくる

### 【活動内容】

- ・新島人の会の立ち上げ
- ・島ぐらし応援団／会内での相談ができる体制
- ・会員の交流
- ・上手な島ぐらしの為の勉強会の開催→「久米島あるある」を移住希望者に提供

### 【スケジュール (予定)】

平成 29 年 3 月 新島人の会 会員募集・応援団募集

4 月 歓迎会

6-8 月 ビーチパーリーand ウミガメ観察会

\* 随時お茶会等の開催

平成 30 年 3 月 反省会

## ⑤くがに子育て プラン

※くがにとは、沖縄の方言で「黄金」のことです

### 【施策の方向性】・良住推進

### 【現状と課題】

- ・久米島の危機的状況について島民全体に周知されていない。
- ・地域の中の結びつきが弱くなってきている。(役員会、あいさつ運動、読み聞かせ等の協力者不足)
- ・移住しても子育て環境が整っていないため転出してしまう。

### 【実現したいこと】

- ・人口減少の危機について、島コンシェルジュの存在の意味について住民全体への共通理解をすすめる。
- ・住民が楽しみ共感し合いながら地域の力を高め、移住者を受け入れる土台を作り活動の定着はか
- ・子育て環境の整備、サポートの充実に向けての協力をし子育て世代の島外流出を防ぐ。

### 【活動内容】

#### i. 子育て世代の声を聞く会の開催

- ・子育て環境の充実、子育てサポートのニーズを把握するため直接声を聞く場を設ける。(小学生まで)
- ・座談会の中から島が抱える課題を抽出し解決できるよう関係機関につなげる。

#### ii. 地域力から未来を支える活動 「美崎 蔵元塾」

- ・文化財が数多く点在し赤瓦が魅力的な観光名所の美崎地区(仲原家)を中心に地域力を高めていく。

- ・世代を越え、移住者との交流のきっかけとなる美化活動の実施。
- ・久米島の歴史を聞く・知る・学ぶ。地域の方から昔の話を聞く。
- ・地域の古地図、民話地図その他 お散歩マップ花の地図などの作成を通して地域を知る。
- ・地域の歴史・文化の講話・方言講座他 各種ワークショップの開催。
- ・仲原家企画展の開催直筆の原稿、筆記用具等の遺品、エピソードの紹介、著書の閲覧、仲原家講座(博物館協力)
- ・地域まちまーい：世代を超えたチームがまちまーいをして交流する機会を作る。他の地域とも交流する。
- ・歴史を伝承していく流れを作る。

### iii. 久米島の女子力から作る未来 『チーム久米島プラス』

- ・久米島直売市・ポイント・ピュール・子育て支援『にじのひろば』(有志による参加) 現在活発に活動している元気な女性たちが行なうイベントを通して交流の中から相互作用の力を借り、活性化につなげる。魅力ある島としてPRできる。
- ・子ども・子育て世代のニーズに合わせたブースを計画する。母親たちのエンパワメントの場にもなる。

### iv. 食への意識を高め体により暮らしができる魅力的な島へ

#### 『食育 家族みんなの健康料理教室』『キッズサイエンス料理教室』の開催

- ・食への関心、正しい知識と情報を伝え健康的な暮らしにつなげられるよう食の大切さを学ぶ。
- ・食の大切さをしっかり学べる機会がある島、安全な食材、健康的な暮らしを求めている移住希望者にとって魅力的な島としてPRしていく。

#### 【スケジュール(予定)】

『くがにー子育てプラン』 スケジュール

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	1年目	2年目	3年目
①子育て座談会	・進め方会議 ・日程調整 ・人数把握	○	○		集計	・問題点の抽出 ・関係機関へ相談		○	○	集計	まとめ		島の問題を把握	問題解決に向けた活動	子育て環境の充実が進む
②美崎 蔵元塾															
美化活動	(通年)												・メンバーの共通理解を深める	・活動の流れができてくる	・活動の流れができる
地域のヒアリング	主要メンバーの親睦												・次世代への継承内容の抽出	・更に充実できるよう住民の意見を取り入れる	・地域力が高まりつながりが強くなる
地図作り				○	○						○		・進め方を検討しつつ少しずつできるところから活動していく	・地域への利益につながるような意見を拾う機会をつくる	・美しい町並みの維持を地域が支え、誇りを持ち暮らしている
方言講座	内容把握			○	○								・活動の分類と担当を決める	・地域への利益につながるような意見を拾う機会をつくる	・他の地域との交流も進め島全体の活性化につなげていく
歴史講座	計画			○	○								・住民への伝え同意を得る	・離島交流会民泊などに子どもが説明できるような進めていく	・地域全体が文化財を大切に思い伝承に協力的で観光客移住者に自然な形で伝えることができる
仲原家企画展	分担	協力依頼・資料収集・聞き取り・フライヤー製作							開催準備	○			・小学生に地域のことを伝えていく		・地域全体が文化財を大切に思い伝承に協力的で観光客移住者に自然な形で伝えることができる
企画展・展示会					○										・町並み、歴史文化、プラス人のやさしさで移住者を惹き付け定住へと導く。
まちまーい		○	○												
花だんの整備		○			○		○		○						
仲原家見学会	○説明会														
③チーム久米島プラス	会議	6日					会議	○					イベント開催 3チームとの交流	イベント検討 発展	常設できる場所での活動
④食育		6日		○		○		○					年代別ニーズの把握 食への意識付け	食の意識が高まる	貧血・低体重児 糖尿病の数値の改善

## ⑥うまんちゅ活躍隊 プラン

※うまんちゅとは、沖縄の方言で「みんなで、万人で」という意味です

【施策の方向性】・良住推進

【現状と課題】

- ・島内の福祉・介護・医療・子育てなど、問題点や課題を話し合う場がない。
- ・アイデアがあっても個人や事業所の頑張りに頼っていて、島全体の問題として解決する仕組みがない。
- ・問題と思っていたことがマッチングすることで解決でき、よりよくなるという実践の場が必要。

【実現したいこと】

- ・お世話する人もされる人も、久米島で生活するすべて人が、「おたがいさま」の関係でともにハッピーになれる仕組みづくりを考える
- ・島内にある問題をみんなで共有する場を作る。
- ・島の生活支援・福祉サービスの情報がワンクリックで調べられる情報公開の場所を作る。
- ・問題点、アイデアの蓄積と情報公開の場所を作る。
- ・アイデアを出し合い、実践できる、支援するチームを作る。

【活動内容】

- i. 実践報告会をする。（問題解決に取り組むキックオフイベントみたいなイメージ。誰が来てもいい。一人の意見を大切にできる場所）
- ii. 意見箱・意見メールの設置（毎回大会することはできないので、普段の疑問やアイデアを投稿できる場所）
- iii. 情報集約のツール、みんながいつでも見られる場所づくり。
- iv. 似た問題や一緒に協働できそうなことをマッチングしてサポートできる体制を作る。

【スケジュール（予定）】

- ・協力者(すでに実践している人)を集める。
- ・6-7月くらいにキックオフイベントで実践発表する。（地域に眠っているニーズを掘り起こす。やる気があるけどノウハウがなかった、今からでもやりたいというやる気のある人達を集める。）
- ・常に困りごとやアイデアを集めながら、小さな実践を積み重ねていく。
- ・小さな実践を支えるチームになっていく。
- ・時々実践報告しながら今後の取り組みも考える

## ⑦KSJ(区長&島コン&住民)活動プラン

【施策の方向性】・移住者受入れ体制整備 ・良住推進

### 【現状と課題】

住民と移住者がお互いに理解しあえず、不満が存在している。その原因として、住民と移住者とのコミュニケーション不足と、暗黙の了解をお互いに押し通していることが挙げられる。住民と移住者のコミュニケーションの場や、ツールを増やす必要がある。

### 【実現したいこと】

- ・ごみ捨てや字費のルール、その他、字毎にあるイベントや特色を、移住スタートの時点でわかりやすく移住者へ伝えるため、区長さんと協力して「字紹介チラシ」を作成し、町民課にて移住者(新しい住民)へ配布する。(住民と移住者の壁となりうるコミュニケーションツール不足の解消)
- ・地域の中心的人物の一人である各区長とともに活動することで、各字の住民と、そこへ加入する移住者とが良好な関係を築けるような仕組み・しかけをつくる

### 【活動内容】

- ・各字の区長とともに、「字紹介チラシ」を作成
- ・全字のチラシが出来たら一冊にまとめ、「字ルールブック」として住民へも紹介
- ・「字紹介チラシ」作成を皮切りとして少しずつ、各字の中心的人物である区長を中心としながら、住民と移住者との間に壁が生まれにくい(誤解が少ない)コミュニティー形成を目指すために、必要なツールや場作りに取り組んでいく。

### 【スケジュール(予定)】

4月～ 字紹介チラシの作成継続

平成 29 年 字紹介チラシブック作成(全字の紹介チラシをまとめる)

## ⑧島に必要な人財の確保プラン

【施策の方向性】・島に必要な人財の確保

※ “人こそ宝” という意味をこめ、人材→人財と表記しています。

### 【現状と課題】

- ・島の暮らしを良くする、島の魅力を増す専門知識やスキルを持つ人財が不足している。

### 【実現したいこと】

- ・島をよりよくするために必要な人財に移住・Uターンを促し誘致する。もしくは島内在住者の資格取得推進により確保する。
- ・「子育てしやすい島」を目指し、子育て・教育関連の人財誘致に重点を置き実現する。

### 【活動内容】

- ・「島に必要な人財」のニーズ調査
- ・その人財を誘致するために必要な条件の調査

- ・条件を満たすための各所での調整
- ・人財募集の広報活動
- ・該当者の移住・Uターン時の支援

(資格取得推進の場合は) 資格に関する調査/資格取得推進のための各所での調整/広報活動/資格取得支援活動

【スケジュール(予定)】※誘致する場合

平成 29 年 4 月～ 「島に必要な人財」のニーズ調査

7 月～ 人財誘致のための調整

9 月～ 広報活動

2 月～ 移住支援

平成 30 年 4 月 誘致

## ⑨ “島コンラボ” 運営プラン

【施策の方向性】・良住推進

【現状と課題】

- ・移住定住を推進する上での基礎データが無い(移住希望者の属性、意向、能力、移住定住の障害など)  
→何か行動する際にも根拠のない、「当てずっぽう」の活動になってしまう

【実現したいこと】

- ・移住・定住に関する基礎データの調査分析、各所へ利用可能なデータのフィードバックをし、より良いまちづくりに貢献する

【活動内容】

- ・移住希望者リストの開拓と分析→雇用の掘り起こしへの活用
- ・転入、転出届提出時にアンケートに記入→動向把握

【スケジュール (予定)】

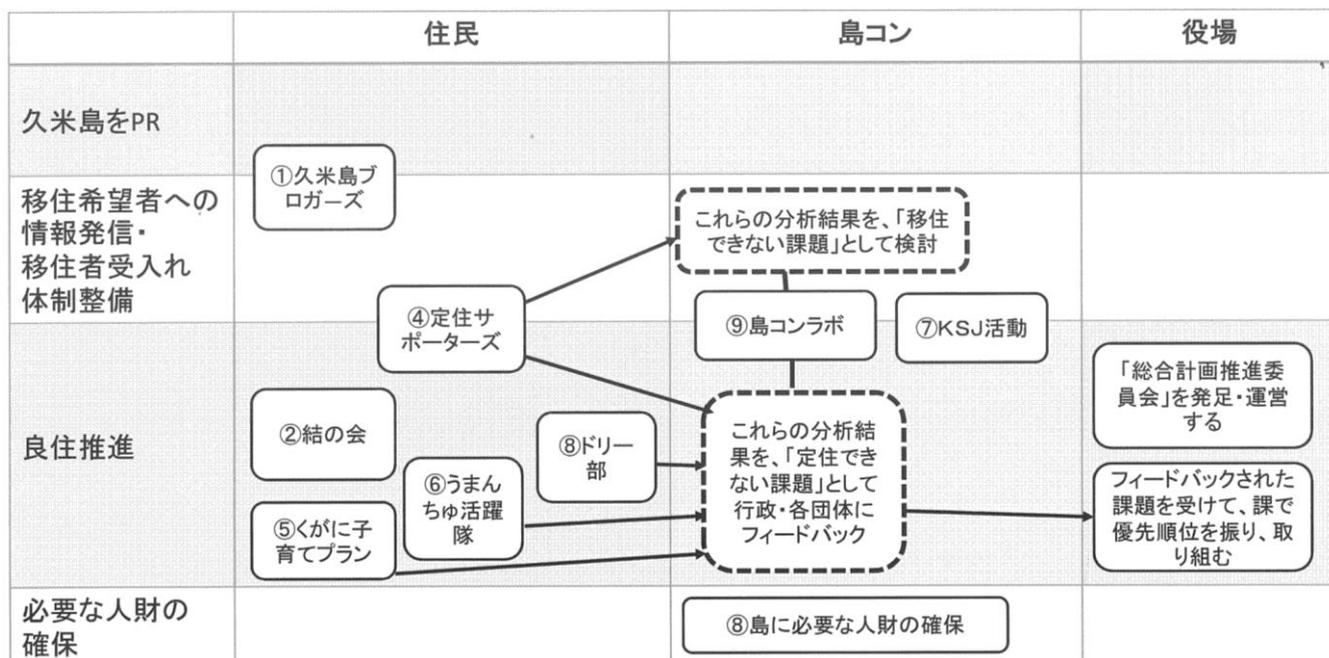
平成 29 年 3 月 転入、転出届アンケート回収開始、新移住希望登録フォーム公開、情報収集開始

5 月 移住希望データの提供開始(能力、資格など)

2 月 移住希望動向レポート作成、公開

#### 4. プランの全体像

### 久米島ドリ一部チャレンジ



住民チームが活動する中で、住民活動では解決することが困難な、様々な課題が見えてくることが予測される。その課題を島コンが受け止め、「移住・定住を妨げる課題」として分析し、行政・各団体にフィードバックする。

行政ではそのフィードバックされた課題を受けて、課題解決に向けて取り組めるような体制を整える。具体的には、庁内で総合計画推進委員会（平成 29 年 5 月発足予定）を立ち上げ、業務の洗い出しや優先順位の付与等、総合計画に基づいた行政運営を推進する。

## 5. 年度計画

### ●平成 28 年度 3 月一チーム結成（同じ想いを持つ人と手を取り合おう）

（住民チーム）チーム立ち上げ、コアメンバーの選定、目標・スケジュールの設定  
（島コン）平成 29 年度の目標・スケジュールの設定

### ●平成 29 年度一活動開始（まずは、動いてみる！）

（住民チーム）キックオフイベントの開催、活動開始

※9 月に総合計画進捗確認イベントを開催するので、全チーム集結して報告会を行う

（島コン）活動開始、分析したデータのフィードバック、住民チームのサポート、報告会の事務局

※年度末に、全チーム集結して報告会、次年度へ向けての計画作成を行う

### ●平成 30 年度一発展（前年度を振り返り、さらに活動を深掘り）

（住民チーム）役場やチーム間での連携強化、広報力強化。自走可能な仕組み構築。

（島コン）役場や住民チームとの連携強化、新事業（インターン・継業等）の検討。NPO 等、町の囑託以外の形態も視野に入れる。

※年度末に、全チーム集結して報告会、次年度へ向けての計画作成を行う。

### ●平成 31 年度以降一定着（磐石な組織へ）

（住民チーム）活動を継続しつつ、組織体制を磐石に。

（島コン）活動を継続。島の課題に即した事業を継続。

※年度末に、全チーム集結して報告会、次年度へ向けての計画作成を行う。

※平成 32 年度には第 2 次久米島町総合計画の中間進捗報告会を開催する。